

家庭基礎	単位数	2単位（70時間）
	学年・学級	第2学年 1組

1. 学習の到達目標等

学習の到達目標	1. 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる 2. 学習した知識や技術を生かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育てる。 3. 生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
使用教科書、副教材等	東京書籍「家庭総合」、「学習ノート」

2. 学習計画および評価方法等 評価の観点のポイント… a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

学期	月	学習内容	学習のねらい	備考（学習活動の特記事項等）	考查範囲	評価の観点のポイント							
						a	b	c	d	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
1 学期	4	第6章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食生活の安全と衛生 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎 6 これからの食生活	○ 日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ○ 日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる。 ○ 食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を知る。 ○ 青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 ○ 食生活の自立に必要な基本的な調理技術を科学的な視点から学び、日常食を作れるようになる。 ○ 日本や地域の食文化を見直し、食文化を継承について考える。 ○ 食料生産や食料問題、食の安全性など課題について考える。 ○ 生涯を通じて健康で安全な食生活を営む力を身につける。	・ 食品成分表の見方を指導し活用する。 ・ 食品の1日の摂取量を実物や見本などで示し、具体的に把握させる。 ・ 実習の計画性・安全性に十分配慮する。	1 学期 期末 考查	○			○	・ 自分や家族の食生活、地域の食文化に関心を持ち、食生活と健康の関わりを考え、意欲的に食生活の改善・向上に努めようとしている。 ・ 食事調査や食品成分表を活用して栄養計算し、食生活の問題点を考えようとしている。 ・ 調理実習や実験などに、科学的な視点から、積極的に取り組もうとしている。 ・ 食品表示に関心を持ち、食生活の安全と環境について考えようとしている。	・ 栄養と健康な食生活の関わりについて考えている。 ・ 食事摂取基準や食品群別摂取量の目安について、家族や自分の食生活と関連させて考え、食生活の課題を調査してまとめ、発表している。 ・ 食文化の在り方や継承について考えている。 ・ 食品をめぐる近年の事例から、食生活の安全性や環境について思考を深めている。 ・ 食品の購入から廃棄、環境との関わりなど、持続可能な食生活について考え、工夫している	・ 主体的に食生活を営むために必要な情報を収集・整理し、検討することができる。 ・ 食品成分表を活用して、栄養計算をすることができる。 ・ 栄養、食品、調理に関する基礎的な知識を生かして、ライフステージの異なる家族に合わせて、適切な献立作成ができる。 ・ 食生活をよりよくするための調理に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。	・ 栄養、食品、調理及び食品衛生など、食事と健康との関わりについて、科学的に理解している。 ・ 調理実習の事前学習を通して、食生活の自立に必要な知識を身につけている。 ・ 地域の食文化から、風土と食物の関係を理解している。 ・ 現代の食生活の課題、食文化、食品の安全性と環境についての課題を認識し、その知識を身につけている。
	5					○	○						
	6					○	○						
	7					○	○						
						○	○						
						○	○						
						○	○						
[課題・提出物等] ワークシート、学習ノート、実験・実習レポートなど [夏休みの宿題] ホームプロジェクト						[第1学期の評価方法] 定期考查、課題・提出物、授業態度							

2 学 期	9	第1章 自分らしい人生をつくる 1 生涯発達の視点 2 青年期の課題 3 目標を持って生きる 4 人生をつくる 5 家族・家庭を見つめる	<ul style="list-style-type: none"> ○各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ○生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つけ、生活課題に対応した意思決定の大切さを理解する。 ○男女が相互に協力して家庭を築くことの重要性を理解し、家庭生活の在り方について考える。 ○家族・家庭に関する基礎的な法律を知り、現在の動きを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分を客観的に振り返らせる。 ・「倫理」や「総合的な学習」と関連させる。 ・キャリア教育と関連させる。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達の考え方に立ち、各ライフステージの特徴と課題に関心を持ち、青年期の課題について具体的に考えようとしている。 ・固定的な性別役割分業意識を見直し、多様な生き方を認め、積極的に家族・家庭と社会との関わりを考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を見つめ、肯定的な自己概念を持ち、自分の人生や進路について考えを深め、具体的にまとめている。 ・家庭生活を支える法律や社会制度、ボランティアの在り方について考え、まとめたり発表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や家庭生活の在り方などについて検討するために、新聞や書籍などから必要な資料を収集したり、調査したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解している。 ・青年期の課題や現代家族の特徴、家庭機能の変化、家庭生活と社会との関わりについて理解している。 ・自分らしく生きるために目標を持ち、生活課題に対応した意思決定を自分で行うことの大切さや考え方を理解している。
	10	第2章 子どもと共に育つ 1 子どもの育つ力を知る 2 親として共に育つ 3 これからの保育環境	<ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解し、子どもを産み育てる事の意義を考える。 ○子どもの発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割について認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ教材などを用いて妊娠や出産の仕組みを具体的に理解させる。 ・親としての立場から子を育てる事の意義について深く考えさせる ・高齢者疑似体験等を通し、体の機能の変化について理解させ、より良いコミュニケーションの方法について具体的に考えさせる。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達のために親や家族、地域社会の果たす役割について課題を見だし、具体的に考えようとしている。 ・高齢社会の現状と課題、高齢者の心身の特徴や生活などについて関心を持ち、高齢者を肯定的にとらえ、高齢期の生活について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを産み育てる事の意義について考え、具体的にまとめ、発表する事ができる。 ・高齢者や高齢者を取り巻く社会について、具体的に課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、まとめたり、発表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦体験等を通し、妊婦の生活面について具体的に考えまとめることができる。 ・親の役割について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の現状と課題、高齢者の心身の特徴や生活について理解している。 ・乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解している。
	11	第3章 高齢社会を生きる 1 高齢期を理解する 2 高齢者の心身の特徴 3 これからの高齢社会	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢期の特徴と生活及び高齢社会の現状と課題について理解する。 ○高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者疑似体験等を通し、体の機能の変化について理解させ、より良いコミュニケーションの方法について具体的に考えさせる。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活に関心を持ち、人間と被服、気候と被服の関わりを考えようとしている。 ・衣生活の文化や持続可能な衣生活について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被服材料の性能改善と着心地、安全に配慮した被服、衣生活の文化の伝承について考え、まとめたり、発表したりしている。 ・衣服の購入から廃棄、環境との関わりなど、持続可能な衣生活について考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的実習を通して、高齢者と適切に関わることができる。 ・高齢者の日常生活に必要な基礎的介助ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の現状と課題、高齢者の心身の特徴や生活について理解している。 ・高齢者の尊厳を保ち、残存能力を生かした自立生活支援の必要性を認識している
12	第7章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 これからの衣生活	<ul style="list-style-type: none"> ○被服のさまざまな役割を整理する。 ○被服材料の特徴を理解し、組成表示・取り扱い表示・サイズ表示などの意味を知る。 ○汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ○平面構成と立体構成の違いを知る。 ○布を使った伝統的な生活の工夫を知り、現代に生かす。 ○生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物教材を用いて、被服材料について具体的に理解させる。 ・生徒個人の衣生活に関連づけて学習を進める。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・被服材料の性能改善と着心地、安全に配慮した被服、衣生活の文化の伝承について考え、まとめたり、発表したりしている。 ・衣服の購入から廃棄、環境との関わりなど、持続可能な衣生活について考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と安全に配慮した被服計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着装、被服材料、被服構成、被服製作、被服管理などについて科学的に理解している。 ・資源の有効活用の視点から、購入、活用、手入れ、保管、再利用、廃棄を考えた持続可能な衣生活の必要性を理解している。 		
[課題・提出物等] ワークシート、学習ノート、実験・実習レポート、ホームプロジェクトなど								[2学期の評価方法] 1学期に準ずる				

学期	月	学習内容	学習のねらい	備考（学習活動の特記事項等）	考查範囲	評価の観点のポイント							
						a	b	c	d	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
3 学期	1	第5章 経済生活を営む 1 職業生活を設計する 2 計画的に使う 3 現代の消費社会 4 消費者の権利と責任 5 これからの消費生活と環境	○高校卒業後について、経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。 ○生活の基盤となる家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 ○国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ○キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 ○消費者基本法を通して、消費者には権利と責任があることを理解する。	・実生活の家計の収支を認識させる。 ・クレジット払い等のリスクを実感させる。 ・日常のニュースから実際に起こっている消費者問題を集めさせる。 ・持続可能な社会になるために自分でできることを考えさせる。	3 学期 期末 考查	○	○	○	○	・生涯を見通した生活における経済計画について関心を持ち、自立した消費者として行動しようとしている。 ・消費生活における課題や消費者の権利と責任について理解しようとする。 ・環境保全に対する社会全体の取り組みや見通しの必要性から、持続可能な社会に向けた消費行動をしようとしている。	・経済的自立と職業について考えを深めている。 ・多発する消費者問題について、その原因と対策について具体的な事例を通して考え、まとめたり、発表したりしている。 ・消費行動と環境との関わりについて、自身の生活と関連させて課題を見出し、生活の質を向上させるためにはどのような消費生活を築けばよいかを考え、工夫している。	・家庭の経済生活の諸課題の具体的な事例を収集・整理したり、生涯を見通した経済計画を立てることができる。 ・身近な生活の中から、環境に関わる生活の仕方を点検し、生活様式の見直しや環境に調和した生活など、自分の消費行動を検証することができる。	・生涯を見通した経済計画の重要性について理解している。 ・消費者問題の現状や消費者の権利と責任について理解している。 ・環境問題に配慮したグリーンコンシューマーとなることが求められていることを理解し、家庭生活と資源・環境との関わりについて、自立した消費者になるための知識を身につけている。
	2	第8章 住生活をつくる 1 住生活について考える 2 住生活の計画と選択 3 これからの住生活	○住居の機能を考える。 ○平面図の基礎知識を習得し、間取りや動線について理解する。 ○ライフステージに合った住居を考える。 ○室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を理解する。 ○バリアフリーの考え方を理解する。 ○気候風土に応じた住居や住まい方の工夫、住様式があることを理解する。 ○住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活とは何か考える。	・住宅広告や住宅情報誌、インターネットなどを活用する。 ・住まいに対するイメージを広げる。		○	○	○	○	・生涯を見通して、住居の機能や住空間の計画などについて関心を持ち、よりよい住生活について考えようとしている。 ・安全で快適な住まい方や住環境について考えようとしている。 ・先人の知恵を生かした快適な住生活や住まい方について考えようとしている。	・ライフスタイルや価値観に応じた、生命と健康を守るための暮らしの在り方について考え、工夫している。 ・家庭内事故や防災など、安全な住環境の課題について考えを深め、まとめたり、発表したりしている。 ・地球環境に配慮した快適な住環境や、自然環境や社会環境と調和した住生活について考え、まとめたり、発表したりしている。	・よりよい居住環境を整備するために必要な平面図を読み取ることができる。 ・家族構成やライフステージ、生活価値観に応じた住空間の計画ができる。 ・健康や安全に配慮した室内整備や住環境について情報を収集・整理し、検討することができる。	・住居の機能、住空間の計画、住環境など、安全で快適な住まいについて科学的に理解している。 ・安全と環境に配慮した住環境や現代の住生活の課題を認識し、その知識を身につけている。 ・住居と気候・風土・生活の関わり、住宅形態や住宅政策について理解している。
	3	第9章 生活を設計する 1 生涯を見通す	○これまでの学習を踏まえて、自分の目指すライフスタイルを考え、高校卒業後の生活設計を立てる。	関連するデータや視聴覚教材を用意したり、自分で集めさせる		○	○	○	○	・生涯を見通した自己の生活設計について関心を持ち、自分の生活をマネジメントすることについて考えようとしている。	・自己実現を目指して、生活設計を考え、まとめたり、発表したりしている。	・必要な情報を収集・整理し、検討を行い、具体的な生活設計を立てることができる。	・生活設計の意義や生活設計に必要な要素など、生活設計を行うために必要な知識を身につけている。
[課題・提出物等] ワークシート、学習ノート、実験・実習レポートなど						[年間の学習状況の評価] 1～3学期の評価を踏まえて、総合的に評価する。							

